

策定委員会等会議録

審議会等の名称	第3回甲州市商工業振興計画策定委員会
開催日時	平成29年11月2日(木) 15:30~17:00
開催場所	甲州市役所本庁舎2階 第1会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	澤伸恭、大久保親雄、松吉寛治、林徳子、平塚明美(5人) 〔敬称略・五十音順〕
事務局	中村産業振興課長、林主査、雨宮主事、渡邊主事
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) ワークショップの結果報告について (2) 学生(若者)対象のワークショップの開催について (3) 商工業振興計画の骨子について (4) その他 4 閉会
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 <ul style="list-style-type: none"> ○事務局(開会の辞) ○委員長(挨拶を行う。) 2 委員長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) ワークショップの結果報告について <ul style="list-style-type: none"> ○委員長 ワークショップの結果報告について、事務局より説明を求める。 ○事務局 資料2を用いて説明を行う。ワークショップについては、第1回目を9月20日(水)、第2回目を10月4日(水)の2回にわたり開催した。第1回目のワークショップについては、参加者数は28名。実施概要については、澤委員長の進行のもと、参加者をそれぞれジビエ、よその、ステイプ、大菩薩チームの4つのグループに分け、はじめにグループごとに甲州市の特徴・強みについて意見を出しあった。その後、その強みを活かした商品・サービスについて意見を出しあった。さらに商品・サービスの将来展望について意見を出しあい、グループごとに発表を行った。発表結果については、資料2の通りである。本市の特徴・強みは、自然やワイン、果樹、農業、歴史、東京からの立地条件等が挙げられた。商品・サービスについては、フルーツの加工品、ワイン、農業体験、農家民宿、農家レストラン等の意見が多かった。それらの意見を踏まえ、本市の将来展望をどのように考えていくかということについては、本市は果樹王国のまちであり、世界に誇れるフルーツや高級なフルーツの加工品等が将来展望として見込まれるとの意見や農業・果樹の景観も大切にしていけるべきであるとの意見、さらに住む人が増えることが大切であるとの意見も出た。そのためには、農業体験やワイナリー巡り等の体験ツアーを充実させていく必要があるのではないかという意見やワイナリーを巡るだけでなく、ワインの醸造体験を充実させていくことが交流人口の増加に繋がるのではないかという意見が総じて多かった。以上が、

第1回目のワークショップの内容である。
第2回目のワークショップについては、参加者は21名。実施概要については、澤委員長の進行のもと、第1回目のワークショップの復習を行った上で、全体討議の中で本市の特徴や強みの優先順位を付けた。優先順位については、第1位を「フルーツ」と決定した。そのフルーツを使ったブランド化を検討し、地域ブランディング整理シートを用いて、どのような地域ブランディングが出来るのかを各グループで討議し、発表を行った。それぞれのグループとも活発に意見が交わされ、とても良い雰囲気の中ワークショップが行われた。ワークショップで出た意見については、商工業振興計画に盛り込んでいくこととする。

- 委員長 資料1を用いて地域ブランディングのおさらいを行う。
ワークショップの結果報告についてご質問があればお伺いしたい。
ワークショップに参加した感想でも構わない。
- 委員 たくさんの意見が出たが、甲州市ならではの商品・サービスを考えることが難しかった。ワークショップは色々な世代の方がいて面白かった。
- 委員 ブランディングシートを作成することが簡単なようで、色々な考えがあるため難しかった。どのように話を進めると地域の活性化に繋がるのか、とても考えさせられた。
- 委員 商工業振興を通じて地域を活性化することが大前提であるが、何を甲州市の一番の強みにするかを考えた際に、地域全体を見るとやはり農業が一番の基盤の地域であると感じる。その上に商工業が成り立ってきている。果樹に重きをおくと派生的に経済が回っていくのではないかと感じる。
- 委員 最近の外国人旅行者の目的は、単純に観光ということだけではなく食が中心である。観光地は一度行けば、興味が無ければ二度は訪れない。市内にも行列が出来るお店はあるが、それぞれが単独で頑張っている状態にある。もう少し全体で発信していくような取り組みが生まれると、地域ブランドが生まれるのではないかと感じる。
- 委員長 フルーツを一番に考えると多くのことが関係してくることがわかる。その関係性を強めていくことで地域の方がフルーツを中心にその地域を盛り上げ、周りの人にも波及効果を及ぼすことにつながる。

(2) 学生(若者)対象のワークショップの開催について

- 委員長 学生(若者)対象のワークショップの開催について、事務局より説明を求める。
- 事務局 資料3を用いて説明を行う。本市の特徴を活かした商工業振興計画を策定するため、学生ならではの意見やアイデアを広く反映させることを目的に行う。先日、当市の課長会議後に、地域づくりの活性化の一環として塩山高校の生徒が研究発表を行う機会があり、その際にも塩山高校の先生には商工業振興計画に絞ったワークショップを開催する旨をお話した。今回は、地域ブランドを「フルーツ」に定め、「フルーツ」を軸にワークショップを進める。その他、日程、進め方については資料の通りである。
- 委員長 事務局の説明の通り進めてよろしいか。
- 委員 異議なし。

(3) 商工業振興計画の骨子について

- 委員長 商工業振興計画の骨子について、事務局より説明を求める。
- 事務局 本日の会議では、どのような章立て・体裁にするのかをご提案させていただきたい。委員の皆様にご意見を頂戴する中でしっかりとした形をつくりあげていきたい。資料4を用いて商工業振興計画の骨子について説明を行う。特に第4章の施策の方向の中では、具体的な内容・展開について記述をさせていただきたい。
- 委員長 商工業振興計画の骨子についてご質問があればお伺いしたい。
- 委員長 第1章の3、計画の位置付けについて、甲州市総合計画、甲州市都市計画マスタープラン等は現在策定中であるか。
- 事務局 すでに実行している計画もある。甲州市総合計画は平成30年度からの5年計画を現在策定中である。見直す時期はまちまちである。
- 委員 市民の意見を踏まえた計画作りという話があるが、アンケートの集計結果など莫大な資料をどのように活かしていくのか教えていただきたい。
- 事務局 ワークショップで議論いただいた内容については、第4章の(1)にあるように、地域のブランディング化による賑わいの創出に落とし込んでいく。3月に行った事業者向けのアンケートについては、経営基盤強化支援の充実や事業承継支援の充実等のご意見が多かった。その辺りを踏まえた、記述にさせていただきたいと考えている。
- 委員 前回の時には市民アンケートがあったが、今の市民の声はどのように反映させていくのか。
- 事務局 今回の計画づくりの中で、前回の計画の検証を行う。今回は市民アンケートを行っていないが、ワークショップというような違った形で、広くご意見をいただいている。さらに概ねまとまった計画をパブリックコメントでお知らせし、ご意見をいただくことも考えている。パブリックコメントについてもやり方を検討する必要がある。
- 委員 前は商業振興計画であったが、今回は工業も含まれている。甲州市は建築や製造業部門が多い。工業部門への支援をしっかり入れ込んでいく必要があると感じる。小規模企業への支援についても考えていただきたい。
- 委員長 甲州市には小規模企業の支援条例があるのか。
- 事務局 来年3月に議会に提出する予定で、中小企業・小規模事業者振興条例の策定に向け準備を進めている。
- 委員 甲州市は他の市町村と比べ建設関係は下請けも含めて非常に大きい割合を占めている。
- 委員長 建設という業種に絞った施策を示した方が良いのか。
- 委員 この地域の実情にあった業種に波及される方向性が示されると良い。
- 事務局 工業、建築業、建設業等の現状分析も行いながら、計画をつくりあげていく。その他、商業部門で考えると、商店街の活性化についてどのようにお考えか伺いたい。
- 委員 甲州市の商店街ほどの規模でこれだけの街路灯が立っているところは他にない。それだけ栄えていたことがわかる。しかし、現状を踏まえると商店街としてではなく個別的に発展していくような計画の方が現実合っている。

<p>(4)その他</p> <p>4 閉会</p>	<p>○事務局 商店街としてではなく個別的に発展していくような計画としていきたい。</p> <p>○委員 商工会の会員にはどのような業種が多いのか。</p> <p>○委員 建設関連、小売・飲食関連が多い。</p> <p>○委員 せっかく計画をつくるのであれば、事業者に広く知れ渡るようにしていただきたい。</p> <p>○委員長 パブリックコメントを出す時期も大切である。計画が煮詰まってからよりも計画が粗い段階で出すことも手段である。講演会を通じて様々な意見を聞いた上で計画を策定した方が、市民の方々の計画になる気がする。その他、見出しで足りない内容や盛り込んだ方がよい内容、削除した方がよいものはあるか。</p> <p>○事務局 商工会で経営発達計画を商工会でつくられているが、そちらとの計画と見比べてみて、内容のご指摘をいただきたい。</p> <p>○委員 内容をよく見させていただき、報告させていただく。</p> <p>○委員長 第4章、6次産業化の推進については、農商工連携や地域の資源を活用して新しい産業を生み出すような言葉がいくつかあるが、記載の仕方はこのままで良いのか。</p> <p>○事務局 アンケートの取り方と合わせて整合性を持たせている。6次産業化や農商工連携を知らない方も多。しかし、地域ブランドを進めていく上では必要不可欠である。</p> <p>○委員 市内で既存のものではなく新しい産業を創業しようとする方はいるのか。</p> <p>○事務局 現状はいない。しかし、今からの時代は、テレワークのようなインターネットで仕事ができるようなことを活かして、地方にいても仕事ができるような事業所を出していただくことも必要なのかなと考えている。都心の大企業と地方が繋がって仕事ができるような取り組みができると面白い。</p> <p>○委員長 今後も皆様のご意見をいただきながら進めていきたい。</p> <p>○事務局 スケジュールの確認を行う。学生向けのワークショップについては12月1日、次回の策定委員会については、12月6日の午後3時30分に開催をさせていただきたい。その際には、計画の素案やパブリックコメントの日程についてもお示しをさせていただきたい。</p> <p>○事務局（閉会の辞）</p>
---------------------------	---

会議資料	<ol style="list-style-type: none">1 甲州市商工業振興計画策定委員会第3回委員会次第2 第2回甲州市商工業振興計画策定委員会3 (資料1) 地域ブランドの定義4 (資料2) 甲州市商工業振興計画ワークショップ開催結果5 (資料3) 学生(若者)対象のワークショップの実施方法について(案)6 (資料4) 甲州市商工業振興計画の骨子について
問い合わせ先	産業振興課 商工担当 TEL 0553-32-5092